

令和5年度 特別養護老人ホーム事業計画

I 基本方針

介護保険関係法令の趣旨に従い、各種事業間の連携を密にすることで、個人の尊厳と自立を継続的に支援していく。また、地域包括ケアシステム構築に向けた在宅関係サービスの柔軟な対応と、終の棲家と言われてきた特別養護老人ホーム事業の更なるサービス向上を図ることで、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援体制の構築を目指すとともに、サービスの質の向上および地域福祉を推進する。

II 事業内容

1 特別養護老人ホーム高風園（以下、「高風園」）

特別養護老人ホーム事業、短期入所生活介護事業、地域密着型通所介護事業、居宅介護支援事業、地域包括支援事業の5事業

2 特別養護老人ホーム高風園「そめやの里」（以下、「そめやの里」）

特別養護老人ホーム事業、地域密着型ユニット型特別養護老人ホーム事業、短期入所生活介護事業、地域密着型通所介護事業、居宅介護支援事業の5事業

3 特別養護老人ホーム明風園（以下、「明風園」）

特別養護老人ホーム事業、短期入所生活介護事業、地域密着型通所介護事業、居宅介護支援事業の4事業

4 特別養護老人ホーム菱風園（以下、「菱風園」）

特別養護老人ホーム事業、短期入所生活介護事業、地域密着型通所介護事業、訪問介護事業、居宅介護支援事業、相談支援事業（障害者福祉サービス）、地域包括支援センター事業の7事業

III 重点的取組と数値目標

1 介護予防通所（および訪問）介護相当サービスに関する継続的取組

本事業については地域包括ケアシステムを念頭に、地域包括支援センターや居宅介護支援事業者、ならびに地域住民等と連携してサービスの充実を図る。

- (1) 利用者が住み慣れた地域で「可能な限り自立した日常生活を営む」ことが出来る様、日常生活上の支援及び機能訓練等を行う事により、生活機能の維持向上を目指す。
- (2) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努める。
- (3) 地域住民による自発的な活動によるサービス、団体・事業者等と連携を図り、総合的なサービスの提供を推進し、地域における役割を発揮する。

2 令和5年度特に強化する取組

世界的に大流行している新型コロナウイルス感染症への適切な対策を行いつつ、法人の社会的責任・将来展望双方を意識した取り組みを実践する。特に「未来創造クローバープラン」に記載された内容を熟慮した将来展望に繋ぐための取り組みを強化する。

- (1) 複雑化が進む加算算定構造を的確に把握するとともに、LIFE との連携を踏まえた各種加算の算定にも繋げ適切な業務の評価を得ることで経営の安定化を図る。
- (2) 新型コロナウイルス感染症に関連する動向や情報に注視し、法人内外との相互応援を含めた柔軟な対応を行う。併せて各種訓練・研修を実施することで感染症対策を強化し、拠点区分の持つ機能を最大限活かし利用される皆様の安全確保と安定的運営に繋ぐ。
- (3) 人材確保策として、専門校を含めた機関等へのPR活動の強化・国際貢献の視点・シニアの活用など幅広い視点での人材発掘を行う。
- (4) 介護の効率化を目指し、新たなおむつや介護機器の情報を入手し、積極的に試行を行うことで基本業務のスリム化を目指す。
- (5) 人材育成においては採用した人材の専門性を高めるために、OJTに加えICT(Eラーニング等)

- の活用による専門的な研修受講を推進し、サービスの向上はもとより次世代の確保に繋ぐ。
- (6) 昨今危惧される感染症対策・災害対策については、普及啓発を積極的に行うとともに保有するスキルを地域社会へ還元する。
- (7) ICT・IoTの積極的な活用により、テクノロジーの活用を推進し、業務のスリム化・効率化に繋ぐための方策を検討する。
- (8) 社会資源としての施設の役割を共有し、安定した稼働率を確保する。具体的には待機者の状況把握を行うとともに、県内外問わず入園待機者が解消しない地域等へのアプローチについても検討を開始する。
- (9) 昨今の社会情勢の影響による物価高騰への対策強化を図る観点で、利用希望者のニーズに即応するとともに、適正な受け入れ体制を確保することを昨年度以上に意識し、安定的な稼働状況を生み出すことで経営基盤を安定化させる。

3 各拠点区分の本年度重点課題および数値目標

(1) 高風園

重点課題

- ・災害対策と感染症対策を重点に取り組み、利用される皆様の安全と健康を確保することで、安定的な園運営を図る。
- ・施設整備に必要な資金の確保に向け、県内外の待機が解消しない地域へのアプローチを検討し、特養・短期入所の稼働率及び待機者の安定した確保を図る。
- ・デイサービスの稼働率確保のため、利用者ニーズに対応したサービスを検討し、要支援者の獲得に取り組む。

数値目標

実施事業	定員	目標値	備考
特養（従来）	80床	98.5%	年間平均稼働率
短期入所	8床	78.0%	〃
地域密着型通所介護	18人	12人	1日平均利用者数（※注1）
居宅介護	72件	68件	月平均（※注2）
地域包括支援	—	360件	実態把握のための訪問件数

(2) そめやの里

重点課題

- ・地域の医療機関や介護保険事業所等との連携を図り、地域の方に愛される施設づくりに努める。更に、一層のPRを行い、新規利用者を獲得して稼働率を向上させていく。
- ・ユニットケアの理念を各職員に浸透させ、個々のニーズに合わせた質の高いサービスを提供していく。
- ・職員一丸となって、より安定的な経営に取り組んでいく。

数値目標

実施事業	定員	目標値	備考
特養（従来）	34床	98.5%	年間平均稼働率
地域密着型ユニット型特養（個室）	20床	98.5%	〃
短期入所	6床	80.0%	〃
地域密着型通所介護	10人	7人	1日平均利用者数（※注1）
居宅介護	117件	105件	月平均（※注2）

(3) 明風園

重点課題

- ・稼働率を上げて、安定的な収益の確保と財政基盤の強化により、円滑な施設運営に取り組んでいく。
- ・築28年が経過し、老朽化に伴う様々な修繕が必要となることから、計画的に改修及び修繕を進め、サービスと利便性の向上を図っていく。

数値目標

実施事業	定員	目標値	備考
特養（従来）	80床	98.0%	年間平均稼働率
短期入所	10床	65.0%	〃
地域密着型通所介護	18人	15人	1日平均利用者数（※注1）
居宅介護	117件	105件	月平均（※注2）

（4）菱風園

重点課題

- ・ICT・IoTの積極的活用に向け、介護ロボットを試験的に導入し有効性を検討する。
- ・計画的な施設修繕を行うことにより、未来創造クローバープランに掲げる、施設の長寿命化を図るとともに、同プランに掲げる利用者サービスの向上に繋ぐ。

数値目標

実施事業	定員	目標値	備考
特養（従来）	120床	98.5%	年間平均稼働率(1日平均118名を目標)
短期入所	8床	87.5%	〃 (1日平均7名を目標)
地域密着型通所介護	15人	12人	1日平均利用者数（※注1）
訪問介護	—	400回	月平均利用回数（※注1）
居宅介護	185件	150件	月平均（※注2）
相談支援（障害福祉）	—	60件 200件	年間計画 年間モニタリング数
地域包括支援	—	200件	月平均相談件数

※注1：「数値目標」における通所介護ならびに訪問介護の定員・目標値は、介護予防相当サービスの利用者を含む。また「そめやの里」は基準該当障害福祉サービスも含む。

※注2：「数値目標」における居宅介護の定員・目標値は、ケアマネ1名が月39件（介護1件に対し予防は0.5件でカウント）を基本とした数値。